

☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120
FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387

府民学習会
あなたと家族の健康を守るために
正しく知ろう! PM2.5と中国事情

日時: 2013年5月26日(日)
午後1時~4時30分
会場: 大阪民医連会議室
お話し: 山本 恒人氏
(大阪経済大学特任教授)
嵯峨井 勝氏
(つくば健康生活研究所代表)

資料代: 500円

5月26日開催の学習会に向けて、講師の一人の嵯峨井勝先生から学習会前に特別に寄稿いただきました。

PM2.5の健康影響について

嵯峨井 勝
つくば健康生活研究所代表
元国立環境研究所・大気影響評価研究チーム総合研究官

発生源はどんなもの?

PM2.5は粒子の直径が2.5マイクロメートル(μm、1μmは1mmの千分の1の長さ)以下の粒子状物質(P.M. Particulate Matters)のことで、ディーゼル自動車の排ガスや石炭、石油を使う工場、家庭暖房などからの排煙および中国からの黄砂、火山灰などが主な発生源となっています。

発生源によって成分が違う

日本のPM2.5は、主にディー

ゼル車由来の微粒子(DEP)です。DEPは主に元素状炭素(EC)に有機炭素成分(OC)、硫酸塩、硝酸塩などに加えて、ごく微量の鉄などの重金属が付着しています。このうち、健康影響が重大なものには有機炭素成分で、亀甲羅がいくつも重なった発がん物質やダイオキシン類等です。

一方、今問題の中国から飛来するPM2.5はDEPを含む自動車排ガスに加えて、多量の工場排煙、家庭用暖房排煙および黄砂等に由来しています。その成分は元素状炭素や有機成分に加えて、硫酸塩が多く、また石炭由来の水銀や鉄などの重金属類もかなり多いといえます。

血液や脳、生殖器などにも入り込みます

物が気管支ぜんそく等の増悪に深くかかわっているのです。

DEPやPM2.5は、非常に小さな粒子であるため、肺の奥深くまで侵入し、人に肺がんを起こします。また、気管支喘息の他に急性あるいは慢性の気管支炎のような呼吸器疾患や花粉症(アレルギー性鼻炎)、あるいは皮膚に付着すると皮膚炎などを起こします。さらに、心疾患、脳血管疾患あるいは糖尿病などの持病のある人の死亡率を高めることが疫学調査で分かっています。

動物実験では、DEPやPM2.5は肺から血管に入って脳や生殖器など全身に到達することが分かっています。そのため、精子の異常や奇形児の誕生をはじめとする生殖系への影響、脳神経(中枢神経)系細胞の減少を招き、アルツハイマー病やパーキンソン病のような行動を誘発することも報告されており、その健康影響は極めて多岐にわたっています。

健康影響に関する調査結果

環境省は今もDEPあるいはPM2.5が喘息の原因物質とは認めていません。千葉大学の優れた疫学調査や動物実験の結果等から裁判では粒子状物質が喘息の原因と認定されました。

その後、環境省は「SORAプロジェクト」を実施し、2011年5月に結果を発表し、記者会見で関連を認めるような発言をしましたが、環境大臣がそれを否定し、それが政府の公式見解となっています。いくら研究が進んでも完璧でないとして被害者を救済しようとしません。

国、行政の役割とは何か?

東京大気汚染公害裁判の判決について、東京都の石原知事は、「訴訟の対応に労力を割くのではなく、排ガス規制の強化と健康被害者の救済が本場に必要な行政の使命である」と発言しました。何と素晴らしい発言でしょう。彼が控訴を断念し、東京都が中心になり健康被害者救済制度を確立した点は高く評価できます。

一方、国側は、裁判で負けても因果関係を否定し続け、被害者の救済を放棄する姿勢に終始しています。私たちの戦いはまだまだ続けなければなりません。